

1

白米

乗
つて

悪い

都合

銀

面会

2

1 A
ま

B
ぞ

C
ぶ

2
① ウ
② ア
③ イ

3 X
ウ

Y
オ

4
I
イ
II
エ
III
ウ
IV
ア

5
ウ

6
(記述題)

3

7
とり

8
カラ

9
次の

1
2

2
抽象

3
3年生です。

4 A
空

B
登

C
形

D
赤

5
I
ウ
II
エ
III
ア

6
目で見る

7
生き

8
2

9
エ

10
炭
ム

2

6
ウフ・ア・ラ・コックを覚えてくれたこと。

(同意可)

配点	
1・2・3・4	各2点×13=26点
26	6点
その他	各4点×17=68点
〈計〉100点	

1

- 1 「白米」とは玄米げんまいをついてぬかや胚芽はいがなどを取り除いた米である。
- 2 「乗」の横棒は三本であり、そのうちの真ん中の横棒が一番長い。バランスに気をつけて書こう。
- 3 「悪」の上半分は「垂」である。「票」の上半分のように書いてはいけない。
- 4 「都合」とはなりゆきや、具合、事情のことである。「都」の終わりの三画を「尸」のように書かないように気をつけよう。
- 5 「銀」の右半分を「良」と書いてはいけない。また、最後の二画を「く」のように書かず一画ずついていねいに書こう。
- 6 「面会」とは人と直接会ちよくせつうことである。「面」のはじめの二画を「フ」のように続けて書かないよう気をつけよう。

2

- 1 他にも「力仕事」「力試し」「力業」など色々なことばがある。見知らぬことばが出てきたときには意識して覚えていこう。
- 2 (①) には、おどろいている様子を表す「目を丸くした」が、(②) には、お父さんと陽と光にも、天の緊張が伝わっているので、「口を閉じた」が、(③) には、陽と光は「ウフ・ア・ラ・コック」が何かわかっていないのだから、「首をかしげる」がそれぞれはいる。
- 3 カラの「先端をきれいに切り落とす」ことの「失敗が続いて」いたのだが、ようやく成功したというところなので、[Y] には「感心」がはいる。「危ないよ、やめなよ」「絶対指切るよ」「血入りの卵は食べたくないなあ」と心配していたが、無事成功したので [X] は「安心」がふさわしい。
- 4 連続した発言のならばかえなので、発言の中に共通のことばや話題がないかを確認していこう。「ふつう」ということばに注目すると、ウの前にはエがはいる、あとにはアがはいることがわかるだろう。
- 5 ようやく成功した「ウフ・ア・ラ・コック」を家族三人がおかわりしてくれているという状況から答えを決めよう。また、「めんどくせーな」と言いながらも、「ほったの内側を軽くかんで」笑顔えがわをこまかしているところにも気づいてほしい。
- 6 「がみババはおれに実演してみせた」や(カラのふちを人差し指でなぞって)「ゆで卵は作れるようになったか」という発言からもわかるように、がみババが天に「ウフ・ア・ラ・コック」の作り方を教えたのである。
- 7 台所で料理をしなくなったということは、台所に置かれている調理道具を使う人がいなくなったということでもある。
- 8 ここでは、料理に興味を持ち、本格的に料理を学ぼうとする気持ちを表している。
- 9 文章は時間や場所、中心人物が変わるタイミングで、大きく切り分けることができる。通読時からそういった変わり目を意識しよう。

3

- 1 ①をふくむ文の直後の段落のはじめに「ひとつは」とあるので、ここで「ことばの力」に対する「大きな誤解」の一つめの説明をしているとわかる。その後「もうひとつは」とあるので、誤解は合わせて2つであるということである。
- 2 通読の際に、「学力を伸ばすために必要な」ことばがどういうことばなのか、と考えながら読み進める必要がある。「小学3年生から」抽象度の高い内容が出てくる「理解が追いつかなくなってしまう」「学校では」抽象的なことばが使われるようになり「ますます勉強がわからなくなり、嫌いになってしまふ」とあるように、「抽象的なことば」への理解が追いつかないと勉強がわからなくなるということである。これは、学力を伸ばそうと思ったら「抽象的なことば」を理解することが重要だということである。
- 3 線③が段落のはじめの一文なので、この段落で説明されているのではないかとこの見当をつけよう。また、「連続した二文」という指定に気をつけよう。「そうすると」からはじまる一文も答えに入れる必要がある。
- 4 A「満腹・空腹」は「腹がいっぱいになること・腹がすいていること」、B「下校・登校」は「学校から家に帰ること・授業を受けるために学校に行くこと」、C「内容・形式」は「形あるものの中につまっているもの・外にあらわれた形」、D「黒字・赤字」は「収入が支出より多いこと・支出が収入より多いこと」である。
- 5 (I) の前では「抽象」と「具体」の意味が、あとでは「具体的なことば」と「抽象的なことば」の具体例が書かれているので、(I) には例示のはたらきを持つ「例えば」がはいる。(II) の前後には、「具体的なことば」と「抽象的なことば」の具体例が並べられているので、(II) には並列のはたらきを持つ「同様に」がはいる。(III) の前では「できるような」になったこと、あとでは「身につけることはできない」ことが書かれているので、(III) には逆接のはたらきを持つ「しかし」がはいる。
- 6 ⑤をふくむ段落の「家具」は「抽象的なことば」であり、それは「目にすることができ」ないものなので、⑤には「目にする」と同じ意味のことばがはいるとわかる。「本文中の★の段落から」さがすという指定を見落とさないようにしよう。
- 7 ⑥をふくむ段落は直前の「では、抽象的なことばをひたすら暗記すればいいのか」という問いかけの答えになっている。「死んだ知識」ではなく「⑥」にすることが大事だ、と書かれているので、「死んだ」と反対の意味のことばがふくまれるだろうと予想できる。
- 8 線⑦をふくむ一文から、「毎日の生活の中で」抽象的なことばや学習内容が、自分の身体や生活と結びついてくる例がここより前でいくつ書かれているかを考えればよいとわかる。「数学が」からはじまる段落と「料理が」からはじまる段落の2つである。
- 9 ⑧をふくむ一文から、「速さ」という概念について書かれている「数学が」からはじまる段落に注目すればよいとわかる。
- 10 ⑨をふくむ一文から、「ふわふわのパンケーキ」から何の働きが理解できるかについて書かれている「料理が」からはじまる段落に注目すればよいとわかる。